

大学等名	神戸親和大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件

③ 修了要件

以下の3科目、計4単位を全て取得すること。3科目は、全て全学共通教育科目群として開講されている。
 心得・導入・基礎科目：「AIとデータサイエンス」2単位
 心得科目 ：「ICT基礎Ⅰ」1単位（卒業必修科目）
 基礎科目 ：「ICT基礎Ⅱ」1単位（卒業必修科目）

必要最低単位数 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					
ICT基礎Ⅰ	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○						
ICT基礎Ⅱ	1	○			○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
ICT基礎Ⅱ	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ「AIとデータサイエンス」(1回目、2回目)、IoT「AIとデータサイエンス」(1回目、3回目)、AI、ロボット「AIとデータサイエンス」(1回目、4回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「AIとデータサイエンス」(1回目) ・Society 5.0、データ駆動型社会「AIとデータサイエンス」(5回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「AIとデータサイエンス」(4回目) ・AI最新技術の活用例「AIとデータサイエンス」(4回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「AIとデータサイエンス」(6回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「AIとデータサイエンス」(6回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「AIとデータサイエンス」(6回目) ・データ作成、データのオープン化(オープンデータ)「AIとデータサイエンス」(6回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「AIとデータサイエンス」(7回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「AIとデータサイエンス」(7回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「AIとデータサイエンス」(7回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析「AIとデータサイエンス」(8回目、9回目) ・データの可視化「AIとデータサイエンス」(8回目、9回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル「AIとデータサイエンス」(10回目) ・X-tech, 流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例「AIとデータサイエンス」(10回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI、個人情報保護、データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「AIとデータサイエンス」(11回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論「AIとデータサイエンス」(12回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性、匿名加工情報、暗号化、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「AIとデータサイエンス」(14回目) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性、匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「ICT基礎 I」(5回目、8回目、11回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、データのばらつき「ICT基礎 II」(12回目) ・相関と因果、国勢調査、アンケート調査、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、統計情報の正しい理解「AIとデータサイエンス」(11回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現、データ比較、不適切なグラフ表現「AIとデータサイエンス」(11回目) ・データ表現「ICT基礎 II」(9回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ集計、並び替え、データ解析ツール、表形式データ「AIとデータサイエンス」(11回目) ・データの集計、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ「ICT基礎 II」(11回目、12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に着け、学修した知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を教授し、問題解決できる力を身につける。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
文学部	283	120	360	25	0	25	22	0	22	0			0			0			0			0			0			0			0			0			25	7%			
教育学部	1,014	265	1,270	29	0	29	28	0	28	0			0			0			0			0			0			0			0			0			29	2%			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合計	1,297	385	1,630	54	0	54	50	0	50	0			0			0			0			0			0			0			0			54	3%						

大学等名 神戸親和大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 73 人 (非常勤) 182 人

② プログラムの授業を教えている教員数 7 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) 高橋 一夫 (役職名) 学習教育総合センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
学習教育総合センター運営委員会
 (責任者名) 高橋 一夫 (役職名) 学習教育総合センター長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
学習教育総合センター規定

⑥ 体制の目的

学習教育総合センターは、学内の情報基盤の整備・運用と情報教育に係る教育研究の推進を目的として開設された旧情報処理教育センターをベースに、2018年に、学習、研究全般に係る支援、推進を図ることを目的とし設置された全学組織であり、共通教育・情報リテラシー科目群のカリキュラム運営を担っている。
 本センターでは、本学の目標でもある「DX時代に貢献する人材」を育成するため、データを活用し社会の課題を発見・解決できる知識とスキルを学生達が修得できるよう検討を重ね、共通教育科目群において「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開設した。
 学習教育総合センター長とICT教育に携わる各学科1名ずつの代表教員と、本プログラム担当者などのセンター長指名の教職員とからなる。
 カリキュラムの見直し等については、履修データ、成績分布、授業評価データ、学修行動調査をもとに、本センター委員会にて行う。

⑦ 具体的な構成員

学習教育総合センター長とICT教育に携わる各学科1名の代表教員と、プログラム担当者などセンター長指名の教職員。

学習教育総合センター長 高橋一夫
 文学部 教授 酒井純
 文学部 教授 河野泉
 文学部 准教授 犬飼朋恵
 教育学部 教授 松本宗久
 教育学部 教授 金井猛徳
 教育学部 准教授 間瀬泰尚
 教育学部 准教授 宮辻和貴
 学習教育総合センター次長 安井茂美
 学習教育総合センター事務室主任 工藤英雄

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	3%	令和5年度予定	12%	令和6年度予定	33%
令和7年度予定	65%	令和8年度予定	90%	収容定員(名)	1,630
具体的な計画					
<p>令和4年度入学生から開始した本プログラムは、構成する3科目中「ICT基礎Ⅰ」「ICT基礎Ⅱ」は、全学必修科目としており、本プログラムに対する興味関心を誘発するよう構成している。</p> <p>令和4年度の入学定員385名に対し約13%、<u>入学者数243名に対し、約20%の学生が令和4年度中に「AIとデータサイエンス」を履修・単位修得し、修了要件を満たしたという状況である。</u></p> <p>今後、履修者を増やすため、各学科の履修率の目標値を60%以上とし、以下の項目を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修ガイダンス時における運営委員から履修指導。 ・学習支援のため、授業外対面補習、Teamsによる質疑等の実施。 ・演習時のサポート学生の配置(継続) ・興味喚起のための図書館、ラーニングcommonsと協力した資料の収集と提供(継続)・提供イベント。 ・学年進行に応じ、未修得者については、学科専門科目の関連のある学びからの履修指導。 <p>また、令和7年度生からは、全学必修プログラムとするため、中心科目である「AIとデータサイエンス」を卒業必修科目として、卒業要件に履修を義務付けることにより、履修率を向上させる。</p>					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

<p>共通教育科目群に本プログラムを位置づけ、修了要件の3科目を全学生が受講可能なよう開設した。</p> <p>うち、2科目を全学生の卒業必修要件科目としている。その2科目では、学習教育総合センターの各学科教員が共同で検討・作成した共通のコンテンツをLMSで提供し、課題については、自身の学科にあったものに取り組みやすい工夫している。</p> <p>残り1科目「AIとデータサイエンス」については、現在、授業成果の検証のため、全回対面授業だが教材配信・課題提出はすべてネットワーク上で行えるように整えており、より希望する学生が受講しやすくなるようオンデマンドを含めた授業の実施方法について検討している。</p>

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

<p>以下のように、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前には、ホームページやアドミッションパンフレット等でのカリキュラム案内。 ・入学後のガイダンスでの周知 ・学科での履修指導。 ・学内ポータルサイトでのプログラム周知。 ・関連科目での本教育プログラムの有効性の説明。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの授業については、すべてLMSやTeams上にすべての教材が収録され、学生は適宜閲覧できる環境を構築している。
また、演習を含む対面授業においては、TA・SAを配置し、躓きを減らしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

・学生は不明点をTeams等システム上で、場所・時間を問わず授業担当教員に投げかけることができ、教員は、応答ポリシーに従い、就業時間内に回答している。
・授業日以外に、受講クラスを問わない補習日を学期毎に1日設け、担当教員が交代で質問対応にあたっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

学習教育総合センター運営委員会

(責任者名) 高橋一夫

(役職名) 学習教育総合センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>学務システムから抽出した履修データや成績分布データ、出欠データ等を、学習教育総合センター運営委員会にて、分析・確認を行っている。</p> <p>令和4年度入学生から開始した本プログラムは、修了要件となる3科目すべてを履修した学生は、全学入学者243名に対し、22.2%であった。また、年度中に、本教育プログラム修了要件を満たした学生は、20.6%という状況である。ただし、本教育プログラムの中心科目である「AIとデータサイエンス」の履修者に対する修得率は、92.6%であった。</p> <p>この結果から、学習教育総合センターでは、履修者増をはかることが一番の課題であるとし、科目配当年次以降の学生に対しても履修指導を継続するよう取り組むこととした。また、興味を喚起するための取り組みを図書館やラーニングコモンズの協力のもと、実施することとした。</p>
学修成果	<p>授業評価委員会において実施している授業評価アンケートの本プログラム対象科目に関するデータを、学習教育総合センターで分析し、理解度等を把握している。アンケート項目の「問8. この授業の内容が理解できた」「問6. 担当教員の「教え方」は適切であった。」などの項目を本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p> <p>また、毎回課している課題の得点状況を担当教員および学習教育総合センター職員が把握し、クラス全体として理解が不十分な回があれば、学習教育総合センターにて改善検討を行う仕組みとなっている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>令和4年度については、授業評価委員会において実施している授業評価アンケートの本プログラム対象科目のデータを、学習教育総合センターで、理解度を分析した。アンケート項目は、「問8. この授業の内容が理解できたか」の項目を利用。理解度を6段階とし、評価しているが、中心科目である「AIとデータサイエンス」では、4段階以上は、96%、5段階以上は、60%であり、成績分布とも一致している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートの自由記述項目では、本プログラムの対象科目へのコメントは、高評価であり、学びの喜びを得たようである。ただし、推奨度を測ることができなかったため、あらためて、令和4年度の履修者に本プログラムの推奨度について確認するアンケートを実施を検討中である。</p> <p>なお、令和4年度秋学期科目の授業評価アンケートにおいて、「教え方のすぐれた授業」として、本プログラムの「AIとデータサイエンス」が選出され、学内に公表し、受講推奨に活用している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>学習教育総合センターにて、令和4年度の状況を踏まえ、履修率向上のため、従来の①～③に加え、④、⑤の項目を追加することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①履修ガイダンス時における運営委員から履修指導。 ②学習支援のため、授業外対面補習、Teamsによる質疑等の実施。 ③演習時のサポート学生の配置 ④図書館、ラーニングコモンズと協力した資料の収集と提供と特集イベント。 ⑤学年進行に応じ、未修得者については、学科専門科目の関連のある学びからの履修指導。 <p>また、令和7年度生からの全学必修を目指し、中心科目である「AIとデータサイエンス」の必要コマ数、担当者、授業の実施方法について学習教育総合センターにて、検討中である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>キャリアセンターにて、卒業生の進路先や活躍状況、企業からの評価の把握をおこなっており、学習教育総合センターに報告する仕組みとなっている。</p> <p>毎年、地域・行政等に本学のカリキュラムについて、資料を提示し、ご意見を伺う場を設けている。令和4年度の本プログラム開始にあたっても神戸市北区長から、ご意見をいただき、取り組み内容に賛同いただいた。今後も、詳細にご意見を伺っていく。</p> <p>別途、プログラム改善のために、本学と産学連携事業をおこなっている企業に、講義内容・演習手法等について、ご意見をいただけないか、協力依頼について模索中である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。</p> <p>また、学生自身にも、毎回、授業で学んだ事柄に関する事例を調べる課題を与え、結果を共有し、共感を高める講義としている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>システム上で、講義回毎に、振り返り、感想を提出させ、学生の理解度、共感度を確認している。システム上では、担当教員と学習教育総合センターがその内容を共有し、分析できる。その結果や授業評価アンケートの結果をもとに、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。</p> <p>また、今後社会に求められる内容・水準も変化すると思われ、本学との連携企業からの意見も定期的に伺い、授業内容に反映する仕組みを模索中である。</p>

科目名 Cours Na	AIとデータサイエンス
授業コード Course Code	B330400001
担当者 Instructor Name	金井 猛徳
科目と関連のある実務経験	

教職課程における位置づけ	-
一般的包括的科目	-
含めることが必要な事項	-

授業の目的 Course Description	今後のデジタル社会において、データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようにすること。
到達目標 Course Objectives	1. AIやデータサイエンスを学ぶ理由を説明できる 2. AIやデータサイエンスが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか/生むことを期待されているのか、説明できる 3. AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる 4. データ・AIの利活用における留意事項を説明できる

各回の授業計画 Course Theme	
第1回	1. ガイダンス -なぜ、AI・データサイエンスを学習する必要があるのか-
第2回	2. 社会で起きている変化 -ビッグデータ-
第3回	3. 社会で起きている変化 -IoT、5G-
第4回	4. 社会で起きている変化 -AI-
第5回	5. 社会で起きている変化 -Society5.0、データ駆動型社会-
第6回	6. 社会で活用されているデータ
第7回	7. データ・AIの活用領域
第8回	8. データ・AIを利活用するための技術① -データ解析、可視化技術-
第9回	9. データ・AIの技術② -非構造化データ処理、AIの技術-
第10回	10. データ・AI利活用の現場/データ・AI利活用の最新動向
第11回	11. データを読む・説明する・扱う
第12回	12. データ・AIを扱う上での留意事項① -モラル・倫理、デジタル社会におけるリスク-
第13回	13. データ・AIを扱う上での留意事項② -データを取り巻く考え方-
第14回	14. データを守る上での留意事項
第15回	15. 総合演習とまとめ
特記事項 Special Notes	

授業方法 Teaching Methods
講義を踏まえつつ、ディスカッションとワークを通して理解を深める。

予習・復習・宿題など（内容・時間） Hom work (Det il/Ti e)
1. シラバスを読み、データサイエンスに関する用語について事前学習する。 2. 次回講義の資料を読み、ビッグデータに関する専門用語について事前学習をする 180分 3. 次回講義の資料を読み、IoT、5Gに関する専門用語について事前学習をする 180分

4. 次回講義の資料を読み、AIに関する専門用語について事前学習をする 180分
5. 次回講義の資料を読み、第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会に関する専門用語について事前学習をする 180分
6. 次回講義の資料を読み、社会で活用されているデータに関する専門用語について事前学習をする 180分
7. 次回講義の資料を読み、データ・AIの活用領域に関する専門用語について事前学習をする 180分
8. 次回講義の資料を読み、データ・AIを利活用するための技術に関する専門用語(データ解析と可視化技術の領域)について事前学習をする 180分
9. 次回講義の資料を読み、データ・AIを利活用するための技術に関する専門用語(非構造化データ処理とAIの技術の領域)について事前学習をする 180分
10. 次回講義の資料を読み、「AI利活用の現場」および「データ・AI利活用の最新動向」に関する事例について事前学習をする 180分
11. 次回講義の資料を読み、データを読む・説明する・扱うに関する専門用語について事前学習をする 180分
12. 次回講義の資料を読み、データ・AIを扱う上での留意事項に関する専門用語(モラル・倫理とデジタル社会におけるリスクの領域)について事前学習をする 180分
13. 次回講義の資料を読み、データ・AIを扱う上での留意事項に関する専門用語(データを取り巻く考え方の領域)について事前学習をする 180分
14. 次回講義の資料を読み、データを守る上での留意事項に関する専門用語について事前学習をする 180分
15. これまでの学習した講義資料を確認し、総合練習のテーマについて学習する 180分

評価方法(%) Rating and Assessment Method			
授業へのとりくみ Participation		確認テスト Summary	レポート Report 70
総合演習		30	

評価基準 Rubric	(優) 到達目標を満たしている (良) 到達目標をかなり満たしている (可) 到達目標を一部満たしている
-------------	--

課題(試験・レポート等)へのフィードバック Feedback	レポート、総合演習の課題については、要点となる内容についてのフィードバックを授業中またはLMS上でコメントする。
--------------------------------	--

教科書 Textbooks	適宜資料を配布・配信する
参考書 Reference books	東京大学 数理・情報教育センター『リテラシーレベル教材』 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
授業・準備学習のアドバイス Advice for the classes	授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ)
Course Numbering Code / Diploma Policy
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html/

科目名 Course Name	ICT基礎 I
授業コード Course Code	B020150004
担当者 Instructor Name	間渕 泰尚
科目と関連のある実務経験	

教職課程における位置づけ	66条の6
一般的包括的科目	×
含めることが必要な事項	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作

授業の目的 Course Description	パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。
到達目標 Course Objectives	実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画 Course Themes	
第1回	1. 基本操作(1)：講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
第2回	2. 基本操作(2)：Windowsでのファイル管理、USBメモリの使い方、日本語入力と文字の種類
第3回	3. ワープロ(1)：ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
第4回	4. インターネット(1)：インターネットとWWWのしくみ、Internet Explorerによるホームページの閲覧方法、図書検索
第5回	5. 情報モラル：剽窃問題と著作権
第6回	6. 電子メール：電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
第7回	7. ワープロ(2)：フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
第8回	8. ソーシャルメディア：ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
第9回	9. ワープロ(3)：図形の文章中への挿入方法とその実習
第10回	10. タッチタイピング：タッチタイプによる入力とその実習
第11回	11. インターネット(2)：インターネット利用上の注意事項、コンピューターウイルス対策
第12回	12. 表計算(1)：表計算とは、データの入力、計算式
第13回	13. 表計算(2)：表計算ソフトでのグラフの作成
第14回	14. プレゼン：プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
第15回	15. 応用課題とふり返り：ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート
特記事項 Special Notes	

授業方法 Teaching Methods
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、講義（対面） 2. ラーニングによる自学自習（対面） 3. eラーニングによる自学自習（対面） 4. eラーニングによる自学自習（対面） 5. eラーニングによる自学自習（オンライン） 6. eラーニングによる自学自習（オンライン） 7. eラーニングによる自学自習（オンライン）

- 8. eラーニングによる自学自習 (対面)
- 9. eラーニングによる自学自習 (オンライン)
- 10. eラーニングによる自学自習 (オンライン)
- 11. eラーニングによる自学自習 (オンライン)
- 12. eラーニングによる自学自習 (オンライン)
- 13. eラーニングによる自学自習 (対面)
- 14. eラーニングによる自学自習 (オンライン)
- 15. eラーニングによる自学自習 (オンライン)

予習・復習・宿題など (内容・時間) Homework (Detail/Time)

- 1～15. 予習(15分*15回=225分)
- 1～15. 復習(30分*15回=450分)
- 3. ワープロ(1)課題 30分
- 4. インターネット課題 120分
- 4. 図書検索課題 30分
- 5. 情報モラル課題 240分
- 6. 電子メール課題 120分
- 7. ワープロ(2)課題 180分
- 8. ソーシャルメディア課題 120分
- 9. ワープロ(3)課題 120分
- 10. タッチタイピング練習 120分
- 11. インターネット(2)に関する課題 120分
- 12, 13. 表計算課題 240分
- 14. プレゼンテーション課題 120分
- 15. 応用課題 360分
- 15. 振り返りレポート 120分

評価方法(%) Grading and Assessment Method

授業へのとりくみ Participation	30	確認テスト Summary		レポート Report	
授業内課題		70			

評価基準 Rubric	<p>1. 授業への取り組み 自分で教材を読んで、課題に取り組める (60～69) メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める (70～79) 自ら進んで選択ユニットの課題に取り組む、解決できる (80～100)</p> <p>2. 授業内課題 必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える (60～69) 必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出 (70～79) 提供されているユニットのほとんどを提出 (80～100)</p>
-------------	---

課題 (試験・レポート等) へのフィードバック Feedback	なし eラーニング上にて各課題評価をフィードバック
----------------------------------	------------------------------

教科書 Textbooks	eラーニングシステム内にて教材を提示
参考書 Reference books	なし
授業・準備学習のアドバイス Advice for the classes	対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。 授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力 (学部科目のみ)

Course Numbering Code / Diploma Policy

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html/>

科目名 Course Name	ICT基礎Ⅱ
授業コード Course Code	B300150011
担当者 Instructor Name	間瀬 泰尚
科目と関連のある実務経験	

教職課程における位置づけ	66条の6
一般的包括的科目	×
含めることが必要な事項	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作

授業の目的 Course Description	<p>エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。</p> <p>この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学ぶとともに、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力についても身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。</p>
到達目標 Course Objectives	表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画 Course Themes	
第1回	1. 情報基礎Ⅰの復習、データの編集とグラフの作成
第2回	2. 表計算での印刷の方法
第3回	3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
第4回	4. 表計算での簡単な関数の利用
第5回	5. 表計算での条件を分ける関数の利用
第6回	6. 表計算での日付と時刻の扱い
第7回	7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
第8回	8. 表計算の関数のネスト
第9回	9. 表計算でのグラフの作成
第10回	10. 表計算での文字列操作
第11回	11. 表計算をデータベースとして利用するには
第12回	12. 表計算での統計入門
第13回	13. プレゼンテーションの応用
第14回	14. 画像の編集：GIMPを利用した画像の編集
第15回	15. 応用課題とふり返し：ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返しレポート
特記事項 Special Notes	

授業方法 Teaching Methods	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、講義（対面） 2. eラーニングによる自学自習（対面） 3. eラーニングによる自学自習（オンライン） 4. eラーニングによる自学自習（オンライン） 5. eラーニングによる自学自習（オンライン） 6. eラーニングによる自学自習（オンライン） 7. eラーニングによる自学自習（オンライン） 8. eラーニングによる自学自習（オンライン）
-----------------------	---

9. eラーニングによる自学自習（対面）
10. eラーニングによる自学自習（オンライン）
11. eラーニングによる自学自習（オンライン）
12. eラーニングによる自学自習（オンライン）
13. eラーニングによる自学自習（オンライン）
14. eラーニングによる自学自習（対面）
15. eラーニングによる自学自習（オンライン）

予習・復習・宿題など（内容・時間） Homework (Detail/Time)

- 1～15 予習(15分*15回=225分)
 1～15 復習(30分*15回=450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
 2. 表計算での印刷の課題 60分
 3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
 4. 簡単な関数の利用の課題 120分
 5. 条件を分ける関数の課題 120分
 6. 日付と時刻の課題 120分
 7. VLOOKUP関数の課題 120分
 8. 関数のネストの課題 120分
 9. グラフの作成の課題 120分
 10. 文字列操作の課題 240分
 11. データベースの課題 120分
 12. 統計入門の課題 120分
 13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
 14. 画像の編集の課題 240分
 15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法(%) Grading and Assessment Method

授業へのとりくみ Participation	30	確認テスト Summary		レポート Report	
授業内の課題		70			

評価基準 Rubric	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への取り組み 自分で教材を読んで、課題に取り組める（60～69） メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める（70～79） 自ら進んで選択ユニットの課題に取り組む、解決できる（80～100） 2. 授業内課題 必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える（60～69） 必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出（70～79） 提供されているユニットのほとんどを提出（80～100）
-------------	--

課題（試験・レポート等）へのフィードバック Feedback	eラーニング上にて各課題評価をフィードバック
--------------------------------	------------------------

教科書 Textbooks	なし eラーニングシステム内にて教材を提示する。
参考書 Reference books	なし
授業・準備学習のアドバイス Advice for the classes	表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は情報処理教育センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）

Course Numbering Code / Diploma Policy

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html/>

学部学科・大学院
共通教育

共通教育カリキュラム

幅広い学びを通じ、社会で活躍するための人間力を養います。

3つの基礎能力を養います。



共通教育カリキュラム

共通教育カリキュラムには、必修科目と選択科目の2つの科目群があります。

必修科目	ベシク・スキル	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 健康行動学 ICT基礎Ⅰ・Ⅱ ※数理・データサイエンス・AI教育プログラム 総合英語Ⅰ・Ⅱ Interactive EnglishⅠ・Ⅱ
選択科目	リベラルアーツ	<p>〈外国語コミュニケーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> Interactive EnglishⅢ～Ⅵ Face to Face English 留学英語 フランス語Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ～Ⅳ 韓国朝鮮語Ⅰ～Ⅳ <p>〈文化の中の人間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 哲学 心理学概論 日本史 世界史 文学と文化 <p>〈現代社会と市民〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 法学 社会学 日本国憲法 政治学 経済学 ボランティア実習 世界の現状と課題 環境教育論 情報と社会 現代と金融 人権問題 <p>〈女性をとりまく社会〉</p>

学部学科・大学院

文学部 国際文化学科 ▶

文学部 心理学科 ▶

教育学部 児童教育学科 ▶
※2022年4月名称変更

教育学部 スポーツ教育学科 ▶
※2022年4月名称変更

共通教育 ▶

大学院 ▶



キャリアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族社会学 ● 女性学 ● 少子社会
	〈生命と自然〉 <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎体育学 ● 物理学 ● 人間と自然 ● 栄養学 ● 数学 ● 地球環境
	〈多文化を生きる〉 <ul style="list-style-type: none"> ● 神戸学 ● 多文化社会 ● 国際理解教育論 ● 海外語学研修 ● 海外英語研修 ● アジア文化研修
	〈情報リテラシー〉 <ul style="list-style-type: none"> ● 情報科学 ● メディア・リテラシー論 ● AIとデータサイエンス ※数理・データサイエンス・AI教育プログラム ● 情報数学 ● 情報処理演習A～C
	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア探求Ⅰ・Ⅱ ● キャリアアップA・B ● インターンシップA・B ● 海外インターンシップ

必修科目

ー ベイシック・スキル

多様な科目を履修して、社会人に必要な知識や技術を身につけます。
また、他人の意見を理解し、自らの考えをうまく伝えることができる、基本的なコミュニケーション力を養います。

基礎演習Ⅰ・Ⅱ

4年間の大学生活をより充実したものにするを目的とした科目です。まずは建学の精神や学科の目標など、神戸親和大学について学びます。その後は図書館での資料の探し方や、レポートの書き方といった大学生活を送っていくうえでの基本的なスキルを身につけます。



ICT基礎Ⅰ・Ⅱ

演習を通して、社会人に求められるパソコンの基本的な知識を修得します。主な授業内容は、ウェブページの閲覧やワープロ、表計算、パソコンを用いたプレゼンテーションの方法などです。Ⅱでは、応用スキルとして、グラフ、データベース、統計入門、画像編集などを学びます。



健康行動学

私たちの身の周りには、健康に関するさまざまな情報が溢れています。その中から正しい情報を見分けるために必要な基本知識を修得します。またその知識を生かし、「食べる」「運動する」「休養する」という3つの視点から、自らの生活スタイルを見つめ直すことを目標としています。



Interactive English I・II

英語でコミュニケーションをとることの楽しさを、実践を通して味わう授業です。日常的な場面で英語によるコミュニケーションがとれるよう、身近な話題を題材に、「聞く力」「読む力」「書く力」「話す力」「発表する力」の基礎力を養成します。日本語は一切使いませんが、Berlitzの講師による分かりやすい英語による楽しい英語漬けをめざします。



選択科目

ー リベラルアーツ

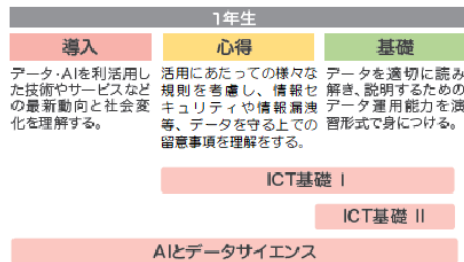
自らの興味・関心に合わせて、さまざまな分野から科目を選択することができます。分野は〈外国語コミュニケーション〉〈文化の中の人間〉〈現代社会と市民〉〈女性をとりまく社会〉〈生命と自然〉〈多文化を生きる〉〈情報リテラシー〉の7つです。各分野とも、基礎から応用まで学べる科目が用意されており、社会人に必要な教養を身につけるための授業が展開されています。



情報活用能力を身につけ、問題解決ができる人材を育成する

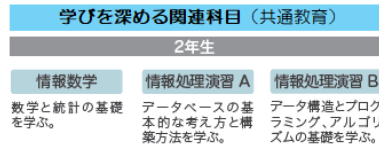
数理・データサイエンス・AI教育プログラム (共通教育)

神戸親和では、全学生を対象とした「情報リテラシー科目群」を共通教育の一環として開講しています。今後さらに社会で必要とされる情報活用能力を磨くために、2022年度よりデータ思考を身につけ、問題を解決できる人材を育成するための「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を用意しました。このプログラムは数理・データサイエンス・AIに関する知識と技術を体系的に学び、基礎的な活用能力を修得できるよう設けられています。



※3科目すべてを修得すると、本学独自の修了証書が授与されます。

共通教育「情報リテラシー科目群」には、更に学びを深めるための関連科目も用意しています。



● 評価結果について

ー キャリアデザイン

1年次から自分の将来について考え、めざす進路の実現に向けて取り組みます。キャリア形成やキャリア支援などのサポートも充実しています。

TOPICS

各大学と単位互換・連携協定を結んでいます。

沖縄大学 (沖縄県)

帝塚山学院大学 (大阪府)

開智国際大学 (千葉県)

2つの単位互換プログラムを開設。1年または半年間、沖縄大学に通い単位を修得することができます。また1週間程度、沖縄体験や環境教育などを学ぶショートプログラムも用意。独自の文化と歴史をもつ沖縄ならではの学びがあります。

20単位を上限とし、帝塚山学院大学で科目を履修することが可能です。単位互換プログラムを利用することで、学芸員資格を取得することができます。

期間の異なる2つの単位互換プログラムを開設。長期プログラム（1年）は45単位、中期プログラム（半年）は22単位を上限として、開智国際大学で学ぶことが可能です。

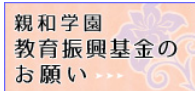
神戸学院大学（兵庫県）

両大学は、教育研究の面で連携し、学生に幅広く柔軟な学びの機会をより多く提供するために包括連携協定を締結しました。教員による共同研究や教職員の交流、ボランティア活動などの地域の活性化にも貢献します。

Shinwa Smile.net（学生ポータルサイト）	シラバス	スクールパス	図書館	ITサポート・情報処理教室
-----------------------------	------	--------	-----	---------------

学校法人親和学園 | 親和中学校・親和女子高等学校

神戸親和大学附属親和幼稚園 | 社会福祉法人親和福祉の会親和保育園 | 社会福祉法人親和福祉の会 幼保連携型認定こども園千鳥が丘親和こども園



〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1
TEL 078-591-1651(代表) [アクセス](#)

- お問い合わせ ▶
- サイトポリシー ▶
- プライバシーポリシー ▶
- 採用情報 ▶
- リンク ▶

(C) KOBE SHINWA UNIVERSITY.



2021(令和3)年度大学評価の結果、本学は大学基準協会の大学基準に適合していると認定されました。



○神戸親和女子大学学習教育総合センター規程

平成30年2月23日

制定

(設置)

第1条 神戸親和女子大学学則（昭和41年4月1日制定。以下「学則」という。）第48条第2項の規定に基づき、神戸親和女子大学学習教育総合センター（以下「センター」という。）を設置する。

(目的)

第2条 センターは、神戸親和女子大学における学生の学習支援、学習環境の整備・改善及び教員の研究支援、並びに学内の情報基盤の整備・運用と情報教育に係る教育研究の推進を目的とする。

(業務)

第3条 センターは第2条の目的を達成するため、次の業務を行うとともに、その成果を本学の学習支援の改善、教育方法・教育課程の改善及び開発に活用する。

- (1) 本学学生の学習支援及び学習環境の整備・改善に関する開発と研究
- (2) 本学のICTを活用した教育及び情報教育の推進に関する業務
- (3) 学内外の教育者・研究者間ネットワークの構築
- (4) 学習支援及び学習環境の整備・改善及び情報教育等に関する研究会・研修会の開催
- (5) 次に掲げる情報ネットワークシステムに関する業務
 - ア 教育研究におけるICT利用に関する業務
 - イ 本学情報ネットワークシステムの運用・管理に関する業務
 - ウ 情報処理に関する講習会及び資格試験に関する業務
- (6) 次に掲げる図書館に関する業務
 - ア 資料の収集・整理・保管及び資料の館内利用・館外貸出・返却に関する業務
 - イ レファレンス・サービス、図書館相互利用サービスに関する業務
 - ウ リポジトリの運用・管理に関する業務
 - エ 研究論叢の編集に関する業務
 - オ その他図書館の運営に関して必要な業務
- (7) 次に掲げるラーニングコモンズに関する業務
 - ア ラーニングコモンズの利用、運営に関する業務
 - イ ラーニングコモンズを活用した企画事業に関する業務

ウ ラーニングコモンズ学生運営スタッフに関する業務

(構成)

第4条 センターは次の各号の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 研究員
- (3) 事務職員

2 前項に定めるもののほか、客員研究員を置くことができる。

3 前項の客員研究員については、本規程に定めるもののほか神戸親和女子大学客員教員規程を準用する。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。センター長は、センターの業務を統轄し、センターを代表する。

2 センター長の選考については、別に定める。

(研究員)

第6条 研究員は、センターの運営及び教育研究開発に関する業務に従事する。

(客員研究員)

第7条 客員研究員は、あらかじめ招へい計画等に定められた業務を行う。

2 客員研究員は、センター長が運営委員会に諮って選考し学長に推薦する。

3 学長は前項の推薦を受けた者について理事長に推薦する。

(事務職員)

第8条 事務職員は、センター長の指示を受けて、センター事務に従事する。

(運営委員会)

第9条 センターに学則第45条第3項に基づき、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 運営委員 各学科1名
- (3) センター次長及びセンター事務室課長
- (4) その他センター長が必要と認めた者

3 前項第3号に定める委員は、センター長の推薦に基づき、全学教授会の議を経て決定する。

- 4 第2項第3号及び第5号に定める委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合における任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 運営委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は、センター長をもってこれに充て、副委員長は第2項の委員の中から委員長が指名する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故等があるときはその職務を代行する。
- 7 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、委員会の意見は出席者の過半数をもって議決する。
- 8 委員会は必要に応じて、委員以外の者に意見又は報告を求めることができる。

(招集)

第10条 センター長は、委員会を招集し、その議長となる。

(審議事項)

第11条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの事業計画・運営・予算に関する重要事項
 - (2) センターが行う研究分野の方針に関する事項
 - (3) センターの自己点検評価及び外部評価に関する事項
 - (4) その他センター業務に関する重要事項
- 2 前項の審議事項のうち、必要な事項については、全学教授会に付議するものとする。
 - 3 委員会は、第1項の審議に当たって必要なときは、部会を設けることができる。
 - 4 部会の内規については、別にこれを定める。

(業務の委託)

第12条 センターは、業務の一部を外部の機関に委託することができる。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は運営委員会の意見を聴いてセンター長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行をもって、「神戸親和女子大学情報処理教育センター規程」(平成9年4月25日制定)「神戸親和女子大学附属図書館規程」(平成12年6月30日制定)「神戸親和女子大学図書委員会規程」(平成12年6月30日制定)「神戸親和女子大学研究論叢編集委員会規程」(平成24年2月14日制定)「ラーニングコモンズ企画運営委員会規程」

(平成27年10月20日制定) は廃止する。

○神戸親和女子大学授業評価委員会規程

令和2年6月9日

制定

(目的)

第1条 神戸親和女子大学の教員の授業力の改善及び向上を図るため、学長のもとに授業評価委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

(評価委の審議事項)

第2条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) 学生による各教員の授業評価（以下「授業評価」という。）の実施方針に関する
と
- (2) 授業評価の企画、実施、分析に関すること
- (3) 授業評価専門部会が実施した授業評価結果（以下「授業評価結果」という。）の検
証・評価に関すること
- (4) 授業評価結果の各教員に対する通知に関すること
- (5) 授業評価結果についての学長への報告に関すること
- (6) 授業評価結果の顕彰に関すること

(授業評価の実施委託)

第3条 授業評価の企画、実施及び分析については、授業評価専門部会に委託する。

(授業計画の提出)

第4条 教員は毎年年度初めに授業計画を委員会に提出しなければならない。

(結果の報告及び公表)

第5条 委員会は毎年度、授業評価の結果を学長に報告するものとする。

- 2 学長は授業評価の結果を理事長に報告するものとする。
- 3 学長は授業評価の結果を総括して学内に公表するものとする。

(授業評価結果の顕彰)

第6条 授業評価結果が極めて良好で委員会が検証すべきと認めた場合、当該授業の担当教員を表彰することができる。

(授業の改善及び指導助言)

第7条 学生による授業評価が著しく低いとして専門部会から報告があった場合、副学長及び教務担当部長は当該教員に対し改善するよう指導・助言を行い、当該教員は委員会に対して新たに改善計画を提出しなければならない。

2 前項にもかかわらず、改善の見込みがない場合、学長はその旨を理事長に報告し、関連する規程に基づき適切な措置を講じるものとする。

3 授業評価結果において人権上の問題等改善すべき重大な問題が確認された場合は、前項と同様に、学長はその旨を理事長に報告し、関連する規程に基づき適切な措置を講じるものとする。

(委員会の委員)

第8条 委員会の委員は次のとおりとする。

- (1) 副学長（座長）
- (2) 教務担当部長
- (3) 各学科長
- (4) 事務局長
- (5) 学長室長
- (6) その他、学長が指名する者

(授業評価の実施)

第9条 評価は原則7月と1月の年度に2回実施する。

第10条 委員会の事務は学長室が行う。

(その他)

第11条 授業評価に関し、この規程に定めのない事項については、委員会の意見を聴いて学長が定める。

附 則

この規程は令和2年6月9日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

○神戸親和女子大学学習教育総合センター規程

平成30年2月23日

制定

(設置)

第1条 神戸親和女子大学学則（昭和41年4月1日制定。以下「学則」という。）第48条第2項の規定に基づき、神戸親和女子大学学習教育総合センター（以下「センター」という。）を設置する。

(目的)

第2条 センターは、神戸親和女子大学における学生の学習支援、学習環境の整備・改善及び教員の研究支援、並びに学内の情報基盤の整備・運用と情報教育に係る教育研究の推進を目的とする。

(業務)

第3条 センターは第2条の目的を達成するため、次の業務を行うとともに、その成果を本学の学習支援の改善、教育方法・教育課程の改善及び開発に活用する。

- (1) 本学学生の学習支援及び学習環境の整備・改善に関する開発と研究
- (2) 本学のICTを活用した教育及び情報教育の推進に関する業務
- (3) 学内外の教育者・研究者間ネットワークの構築
- (4) 学習支援及び学習環境の整備・改善及び情報教育等に関する研究会・研修会の開催
- (5) 次に掲げる情報ネットワークシステムに関する業務
 - ア 教育研究におけるICT利用に関する業務
 - イ 本学情報ネットワークシステムの運用・管理に関する業務
 - ウ 情報処理に関する講習会及び資格試験に関する業務
- (6) 次に掲げる図書館に関する業務
 - ア 資料の収集・整理・保管及び資料の館内利用・館外貸出・返却に関する業務
 - イ レファレンス・サービス、図書館相互利用サービスに関する業務
 - ウ リポジトリの運用・管理に関する業務
 - エ 研究論叢の編集に関する業務
 - オ その他図書館の運営に関して必要な業務
- (7) 次に掲げるラーニングコモンズに関する業務
 - ア ラーニングコモンズの利用、運営に関する業務
 - イ ラーニングコモンズを活用した企画事業に関する業務

ウ ラーニングコモンズ学生運営スタッフに関する業務

(構成)

第4条 センターは次の各号の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 研究員
- (3) 事務職員

2 前項に定めるもののほか、客員研究員を置くことができる。

3 前項の客員研究員については、本規程に定めるもののほか神戸親和女子大学客員教員規程を準用する。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。センター長は、センターの業務を統轄し、センターを代表する。

2 センター長の選考については、別に定める。

(研究員)

第6条 研究員は、センターの運営及び教育研究開発に関する業務に従事する。

(客員研究員)

第7条 客員研究員は、あらかじめ招へい計画等に定められた業務を行う。

2 客員研究員は、センター長が運営委員会に諮って選考し学長に推薦する。

3 学長は前項の推薦を受けた者について理事長に推薦する。

(事務職員)

第8条 事務職員は、センター長の指示を受けて、センター事務に従事する。

(運営委員会)

第9条 センターに学則第45条第3項に基づき、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 運営委員 各学科1名
- (3) センター次長及びセンター事務室課長
- (4) その他センター長が必要と認めた者

3 前項第3号に定める委員は、センター長の推薦に基づき、全学教授会の議を経て決定する。

- 4 第2項第3号及び第5号に定める委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合における任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 運営委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は、センター長をもってこれに充て、副委員長は第2項の委員の中から委員長が指名する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故等があるときはその職務を代行する。
- 7 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、委員会の意見は出席者の過半数をもって議決する。
- 8 委員会は必要に応じて、委員以外の者に意見又は報告を求めることができる。

(招集)

第10条 センター長は、委員会を招集し、その議長となる。

(審議事項)

第11条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの事業計画・運営・予算に関する重要事項
 - (2) センターが行う研究分野の方針に関する事項
 - (3) センターの自己点検評価及び外部評価に関する事項
 - (4) その他センター業務に関する重要事項
- 2 前項の審議事項のうち、必要な事項については、全学教授会に付議するものとする。
 - 3 委員会は、第1項の審議に当たって必要なときは、部会を設けることができる。
 - 4 部会の内規については、別にこれを定める。

(業務の委託)

第12条 センターは、業務の一部を外部の機関に委託することができる。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は運営委員会の意見を聴いてセンター長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行をもって、「神戸親和女子大学情報処理教育センター規程」(平成9年4月25日制定)「神戸親和女子大学附属図書館規程」(平成12年6月30日制定)「神戸親和女子大学図書委員会規程」(平成12年6月30日制定)「神戸親和女子大学研究論叢編集委員会規程」(平成24年2月14日制定)「ラーニングコモンズ企画運営委員会規程」

(平成27年10月20日制定) は廃止する。

神戸親和大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム概要

データ思考を身に着け、問題解決できる人材育成プログラム

全学共通教育科目群

データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に着け、学修した知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を教授し、問題解決できる力を身につける。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

修了要件：以下の3科目4単位を修得すること

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム該当項目

(1) 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	導入	1-1	1-1. 社会で起きている変化
		1-6	1-6. データ・AI利活用の最新動向
		1-2	1-2. 社会で活用されているデータ
		1-3	1-3. データ・AIの活用領域
		1-4	1-4. データ・AI利活用のための技術
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	導入	1-5	1-5. データ・AI利活用の現場
		3-1	3-1. データ・AIを扱う上での留意事項
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	心得	3-2	3-2. データを守る上での留意事項
		2-1	2-1. データを読む
(4) 活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	基礎	2-2	2-2. データを説明する
		2-3	2-3. データを扱う
		(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	

1年生

2年生～

AIとデータサイエンス（2単位）

ICT基礎 I
(1単位)

ICT基礎 II
(1単位)

学びの実践・活用

各学部・学科専門科目

産学連携事業
(フェリシモ、早駒運輸など)

インターンシップ

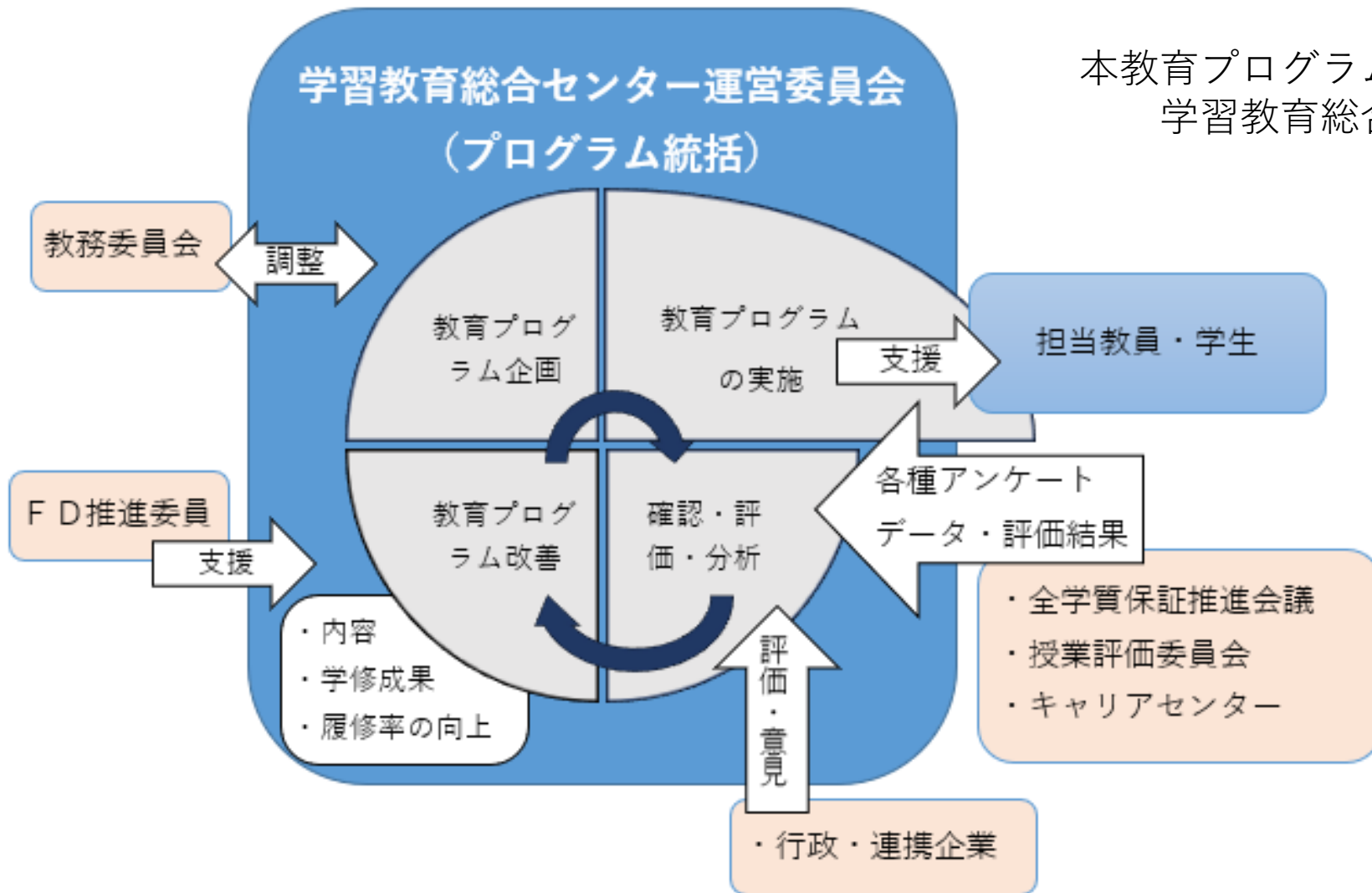
学びを深める関連科目(共通教育科目群)

情報数学
数学と統計の基礎を学ぶ。

情報処理演習 A
データベースの基本的な考え方と構築方法を学ぶ。

情報処理演習 B
データ構造とプログラミング、アルゴリズムの基礎を学ぶ。

神戸親和大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 運営体制について



本教育プログラムの運営組織：
学習教育総合センター運営委員会

各学科選出のICT教育推進教員と、本教育プログラム担当者、支援者からなる全学組織である。

・プログラム受講生には、LMSを管理し、学びやすい環境を提供し、TA・SAの配置、対面補習の実施などの支援を行っている。

・全学質保証推進委員会での検証結果や、授業評価委員会実施の授業評価アンケートデータ、キャリアセンター実施の各種調査などを分析し、プログラム改善にあたる。